

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	初期「ギリシャ研究会」における性と西洋古典の扱い方について
Author(s)	ダマソ, フェレイロ・ポッセ
Citation	プロピレア , 27 : 99 - 101
Issue Date	2021-12-30
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00051909">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00051909</a>
Right	Copyright (c) 2021 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



## 初期「ギリシャ研究会」における 性と西洋古典の扱い方について

フェレイロ・ポッセ、ダマソ

広島大学森戸国際高等教育学院 助教

本発表では、会員制男性同性愛サークル、アドニス会が発行した同名の会員誌『アドニス』の一号～五号における古代ギリシャ・ローマ関係のコンテンツを分析し、そのコンテンツが同誌に掲載された理由を調査した結果をまとめ、報告している。

発表に際しては、まず本研究の動機を述べた。

本研究はマドリッドのコンプルテンセ大学が始めた「東アジアにおけるセクシュアル・マイノリティ」に関する研究プロジェクトに本発表者が誘われたことを機会としている。このことを通じて『アドニス』の存在を知ることができたのであるが、実物を確認した際に、西洋古典関係のコンテンツの多さに驚嘆したことを覚えている。『アドニス』は、日本における最初の同性愛雑誌であるにもかかわらず、先行研究がほとんど存在しないことに気づき、ますます本誌への好奇心に駆られた次第である。

第二に、アドニス会、別名ギリシャ研究会について簡潔に紹介した。同研究会は戦後間もなく日本の性的マイノリティが発足させた最初の男性同性愛サークルであり、1952年10月に同名の会員誌、『アドニス』を発行した。日本のゲイ世界に大きな影響を与えた同誌の発起人メンバーとして、三島由紀夫や中井英夫、塚本邦雄、伏見冲敬、岩倉具栄など、当時の様々な文化人や知識人の名を挙げることができる。『アドニス』の主な特徴は、先端的な性理論・同性愛理論や、斬新な男色研究に加え、様々な分野の専門家へのインタビューや短編小説、連載小説の掲載など、研究雑誌と比較しても遜色のない品格が漂うところだと言えよう。

第三に、第一号から第五号の西洋古典関係のコンテンツをまとめ、整理した。そのリストは以下ようになる。

#### 第一号

- 「アドニス頌」岩倉具栄 (pp. 2-6)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)1」(p. 6)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)2」(p. 11)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)3」(p. 32)

#### 第二号

- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)4」(p. 8)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)5」(p. 32)

#### 第三号

- 「天才と同性愛」伏見冲敬(p. 1)
- 「ローマ帝国と同性愛」岩倉具栄(pp. 2-4)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)6」(p. 9)
- 「ガニメデス」ローマ、ヴァチカン (写真)(p. 15)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)7」(p. 16)

#### 第四号

- 「父と子 ギリシャ時代」(写真)(p. 5)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)8」(p. 9)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)9」(p. 14)

#### 第五号

- 「ARES LUDOVISI」(写真)(p. 5)
- 「SILEN」(写真)(7)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)10」(p. 8)
- 「ギリシャ彫刻と男性美」岩倉具栄 (pp. 10-12)
- 「APOLLO Vatican, Roma」(写真)(p. 11)
- 「ANTINOUS Vatican, Roma」(写真)(p. 12)
- 「リファールのアポロ」(写真)(p. 23)
- 「同性愛者人名辞典(古典時代の部)11」(p. 36)
- 「ポムペイの美術」原浩三 (p. 64)

第四に、『アドニス』の西洋コンテンツを担当していた岩倉具栄を紹介し、彼とアドニス会との関係を吟味した。岩倉は近現代日本の高名な知識人、英文学者であり、長年、教授として法政大学に勤めた。彼の研究対象は、性的嗜好がしばしば議論されていたイギリスの有名小説家 D. H. ローレンスであった。岩倉自

身もその件に関して「ロオレンスの作品に現れた性の思想」(『武蔵野女子大学紀要』7, 39-42, 1972-03) という論文を書いている。

最後に結論として、『アドニス』における西洋古典関係のコンテンツが多い理由を考察した。第二次世界大戦後の日本と異なり、古代ギリシャ・ローマは同性愛嗜好に対して理想的かつ寛容的な世界として描かれていた。当事者の自尊心を確立させるために、同性愛者の美的な世界も存在することも可能だというファンタジーは必然であった。言い換えれば、古代ギリシャ・ローマは、理想化された同性愛の世界として描かれることにより、同性愛者が現実から逃避できるファンタジーの世界という役割を担っていたのである。さらにそのファンタジーを作成することによって、当時の「卑しみつつ欲しがる困った性欲」としての同性愛観念から離れ、男性美を冷静に鑑賞し、性欲から解放する男性同性愛観念が再構築されたのである。しかし、同性愛に対する一般社会の理解が広まり、読者のリクエストに基づき『アドニス』の啓蒙的、純愛的な内容が少なくなっていく。そして、美的な世界への扉としての西洋古典の理想化が徐々に崩れていったのである。